

# 佐渡市地域福祉計画 平成24年度全体評価結果

## 5段階 評価点数

評価分野 (計画書 基本目標)	評価分野 記載内容
1: 地域を支える人づくり (P20~27)	支え合い意識の高揚と参加の促進 (P20) 地域の人材・リーダー育成 (P22) 福祉教育の充実 (P24) 健康・生きがいづくりの推進 (P26)

A 委員	B 委員	C 委員	D 委員	E 委員	F 委員	G 委員
3	4	4	4	3	4	2.7
平均点数		<b>3.5</b>				

### 委員意見(設問:基本目標の達成に向けて、市や社協でどのような取り組みが必要だと思われますか。)

【 A委員 】  
 地域の人材リーダーの育成にもっともっと  
 力点を置く必要があると思います。

【 B委員 】  
 福祉は幅広く、また深みもあります。  
 施設を作り、入所させたり、保護したりというようにハードとソフトの両面でカバーして取り組んでいかなければならないと思っていますが、「佐渡市総合計画」である内容についても合併後10年を経過、合併特例債の見直しを国で検討しており、佐渡市の行財政も見直しを余儀なくされると思われますので、第一次地域福祉計画を見直し、第2次福祉計画を策定したので基本理念である「健やかで思いやりのあふれるまちづくり」に各委員より出された評価内容や評価点を参考におき、目標に向かって努力しようではありませんか(項目全体に対する評価)

【 C委員 】  
 細かく配慮された計画、見直し、練り直し、評価等がそれぞれになされ順調に進んでいると思います。支援される側は当然ですが、する側に多くの人々を巻き込んでいくことで興味関心がより高まり、活発化していくと思います。私も努力していきたいと思います。

【 D委員 】  
 ボランティアリーダー養成講座として住民流福祉研修所の木原先生を講師に、支え合いマップづくりの講座を予定している。多くの参加者を得たい。  
 市内小学校や中学校、高等学校を対象に福祉教育「出前塾」を開催している。今後内容の見直しを検討しているので、連携、協力をお願いしたい。  
 多くの介護予防教室を受託し開催し好評を得ている。今後も継続的な支援をお願いしたい。

【 E委員 】  
 若い人を巻き込んでみんなで地域をささえられるような取り組みが必要

【 F委員 】  
 健康づくりや生きがいづくりを支援するボランティアの養成を行い地域の活動を支援する  
 市民グループなど各種団体に対して活動の場や情報提供の場づくりを支援する

【 G委員 】  
 \* 活発な地域には引っ張っていく指導者やリーダーがいる。市や社協で種々の教室や講座を設け指導者やリーダーの養成を図ろうとしているが、ただ養成講座を開いたとて、指導者やリーダーが育つわけではないし人は参加しない、今、その地域では何か問題があるのか、興味事があるのかを的確に捉えて話し合いその中から指導者やリーダー養成を図ったどうか。市内どこでも画一的な教室・講座でなく地域に合ったものを出来る地域から進めたらどうか。  
 \* 地区には さんに話せば...と指導者やリーダーを決めつけている光景はないだろうか？指導者やリーダーは誰でなければならないということない、その場その場に当たった時的確な指揮、指導、判断やアドバイスができる人物が指導者やリーダーだと思う。集会等の中には目立たないが適格者が埋もれているものである。このような人物を見出すのも職員の仕事の1つである。最初から決めつけず目を凝らして指導者やリーダーを発掘してほしい。(ガンバレ)

# 佐渡市地域福祉計画 平成24年度全体評価結果

## 5段階 評価点数

評価分野 (計画書 基本目標)	評価分野 記載内容
2:地域で支え合うまちづくり (P28~33)	誰もが集える場所・機会づくり(P28) 地域の防災・防犯体制づくり(P30) 地域での見守り・声かけ体制づくり(P32)

A 委員	B 委員	C 委員	D 委員	E 委員	F 委員	G 委員
2	3	4	3	2	3	2.6
平均点数		<b>2.8</b>				

### 委員意見(設問:基本目標の達成に向けて、市や社協でどのような取り組みが必要だと思われますか。)

【 A委員 】  
特に のことについては、形はできていますが地域によっては実質機能しないのではと、思われる面があると思います。強力な指導必要。

【 B委員 】  
「1:地域で支える人づくり」でまとめて記載

【 C委員 】  
「1:地域で支える人づくり」でまとめて記載

【 D委員 】  
公共施設や空き店舗等を利用し、地域の居場所づくりを推進するために、財政的な支援をお願いしたい。  
郵便局との包括協定のみならず、新聞、ガス等ライフラインを担っている事業者との連携を進めてもらいたい

【 E委員 】  
防災に対する意識を高める取り組みが必要

【 F委員 】  
市民の交流の情報を広報誌やホームページを通じ広く伝え交流を促進する。  
教育、福祉分野の連携により子供から高齢者まで異世代間で楽しみ、障がいのある人もない人も互いに理解し合う交流の機会づくりに努める。

【 G委員 】  
\* 昔公民館が設置されたころ、「青空公民館」という場所を問わず集まりの場所がいたるところにできたと思う。多くの人数を招集したい場合は別だが、少人数の集まりなら、進めているような空き地でも、空地でもまた、今は利用者が少なくなり利用されていない(たとえば、ゲートボール場等)場所は、工夫さえすれば多くあると思う。工夫次第だ！  
\* 防犯灯については、合併前各市町村によって差があった。設置数であれ、使用料金であれ...合併により統一化を図りたい旨は分かるが、将来的には使用料の負担も各集落の力量に任せるとなると、新たに設置するのに躊躇するのではないかと、事件が起きると「防犯灯がなく暗かったから...」と報道されている。事件が起きてからでは遅い！市の考察を！

# 佐渡市地域福祉計画 平成24年度全体評価結果

## 5段階 評価点数

評価分野 (計画書 基本目標)	評価分野 記載内容
3:地域での協働によるしくみづくり (P34~47)	福祉ネットワークづくり(P34) ボランティア等市民活動団体への支援(P36) 自治会活動などへの支援(P38) 利用しやすい福祉サービスの提供(P40) 権利擁護の推進(P42) 情報提供体制の充実(P44) 子育てにやさしい地域づくり(P46)

A 委員	B 委員	C 委員	D 委員	E 委員	F 委員	G 委員
3	4	4	4	3	3	2.7
平均点数		<b>3.4</b>				

### 委員意見(設問:基本目標の達成に向けて、市や社協でどのような取り組みが必要だと思われますか。)

【 A委員 】

「地域のことは地域の自分達で」という考え方を基本に置き、それを支援する方が重要であると思います。ついつい指示を出してしまいがちですが。

【 B委員 】

「1:地域で支える人づくり」でまとめて記載

【 C委員 】

「1:地域で支える人づくり」でまとめて記載

【 D委員 】

各地区で地域のニーズ等把握するために地域懇談会を開催している。参加者が少ない地区もあり今後連携して積極的に参加をお願いしたい。

現在、ボランティアセンターにコーディネーター1名を配置している。今後、センター機能強化のために、支援をお願いしたい。

成年後見制度が必要な方が増えています。市民の一人として市職員も後見人を目指してほしい。

【 E委員 】

各事業において目標に向けて取り組んでください。

【 F委員 】

子育て支援のためのボランティアを育成し、相互の交流や情報交換の機会の充実を図る。

災害時要援護者台帳に女性産婦乳児を登録し、見守り声かけをする

青少年健全育成を目的とした講演会を実施する(市)

【 G委員 】

\* 今まで地域で出来たことが出来ない「限界集落」が多くできつつある。出来たことが出来ずに歯がゆい思いをしていることと思われる。こういった集落に何かの手立てはないものか

...

\* 民生委員の活動範囲が多種多様になってきており、民生委員の選任で新任者の原則年齢65歳未満の委員を選出するのに苦慮している。困難な場合は...とのことで65歳以上の人をお願いしているが、これは仕事上の多さが主たる原因であると思う。お願いしたいことは分かるが何とかならないものか？また、「佐渡市民生委員推薦会」の組織があるが、7人の委員で201人もの地区推薦で上がってくる民生委員を、地域も人柄も分からず推薦会で審議するのも如何なものか、たとえば、地域事情の分かる支所単位で決定しては...

\* 地域等で起きる、小さな虐待、いじめ等に対し、見て見ぬふりをする人がいる、巻き込まれるのが「イヤ」だという気持ちもわかるが「勇気」を出せるような社会雰囲気を作る手立てを...

# 佐渡市地域福祉計画 平成24年度全体評価結果

## 5段階 評価点数

評価分野 (計画書 基本目標)	評価分野 記載内容
4: 地域で誰もが安心して暮らせるまちづくり (P48～53)	だれもが暮らしやすい生活環境づくり(P48) 生活交通の確保と買い物支援(P50) 相談体制の充実(P52)

A 委員	B 委員	C 委員	D 委員	E 委員	F 委員	G 委員
3	3	4	4	3	2	2.3
平均点数		<b>3</b>				

### 委員意見(設問:基本目標の達成に向けて、市や社協でどのような取り組みが必要だと思われますか。)

【 A委員 】  
特にありません

【 B委員 】  
「1:地域で支える人づくり」でまとめて記載

【 C委員 】  
「1:地域で支える人づくり」でまとめて記載

【 D委員 】  
法律事務所や消費生活センターなど、各種相談窓口は充実してきていますが、佐和田地区など中心地に多く設置されている。遠隔地での相談窓口として、ランチや在宅介護支援センター、心配ごと相談所の開設を継続したいので、支援をお願いしたい。

【 E委員 】  
の項目はとても重要だと思います。

【 F委員 】  
日常生活に支障をきたす恐れがあり、自助、共助では対応できない要援護世帯に支援をする(市)  
ボランティアの募集を呼びかける(市)  
電話で注文を取りまとめて品物を届けることができる努力をする(市)

【 G委員 】  
\* 病院、大型店、路上等駐車場禁止箇所や区域に平然と駐車する人がいる。この駐車で弱者の迷惑など考えないのである。もっと交通マナーを教えるとか取締りを強化する手はずはないのか。  
\* バスは大きな交通手段であるが、乗車が見込めない地域にも大型のバスが走っている。佐渡以外では、交通機関に頼らず市営の小型マイクロを走らせている地域もある。新潟交通(株)との関係もあろうか？小型マイクロを数多く走らせ市民の足となれるよう考えられないものか。

# 佐渡市地域福祉計画進行管理・評価 集計

事業名	介護予防事業				
新規 or 継続	継続	担当課・係	高齢福祉課・介護保険係	実施区域	全域

## 計画・実行

### 事業概要(現状と課題)

高齢者が近い将来介護が必要にならないよう、生活機能の低下のある人を対象とした二次予防事業と、すべての高齢者を対象とした一次予防事業の両輪で推進している。  
二次予防事業対象把握のため特定健診、高齢者実態把握、教室等で基本チェックリストを実施しているが、全数把握には数年かかる。5年をかけて実施する予定でいる。  
今後も介護予防事業(二次予防事業・一次予防事業)を推進し、要介護状態にならないよう、元気で生きがいを持って生活できる支援を実施していく。

### 事業目標

工夫した点や重点的に取り組んだ点(H24年度中)

平成25年度二次予防事業対象者の把握数(基本チェックリスト実施数)を増やし、生活機能の低下を早期発見し介護予防教室につなげる。目標 9,000件  
介護予防教室の実施回数、参加者数を増やす。

前期高齢者の運動指導の機会を増やすため、一次予防対象者向けに介護予防教室を新規に増やした。  
チェックリストについて、委託事業所の協力を得て、介護予防教室や地域の茶の間でも実施できるようにした。

### 平成24年度実績

基本チェックリスト実施者数:延数8,494件(実数8,191人) 二次予防予防事業対象者数:1,487人  
二次予防事業(通所型介護予防教室): 市直営教室-20回、実38人・延187人 委託教室-128回、実66人・延632人  
一次予防事業(介護予防教室): 市直営教室-31回・延929人 委託教室-1,529回・延14,744人

## 自己評価

評価(実施主体)	評価に対する説明
4	身近な所で、高齢者が参加できるよう教室の回数も増えてきている。教室の内容も、引きこもり予防・運動機能向上など、対象者に応じたプログラム構成で行っている。 また、新規に認知機能向上のプログラム(脳の健康教室)なども今年度計画している。

## 見直し・改善

### 今後の方針

二次予防事業は、委託事業所に支援をしながら受け入れ体制を進めている。今後も、事業の内容に応じて必要な回数が実施出来るよう委託機関を増やしていく方向でいる。一次予防事業についても、地域間の格差がないよう順次体制を整えていく方向で計画している。また、実施内容についても、指導者の研修や実施のしくみを工夫しながら効果のあがる教室運営を目指していく。

### 協働事項(事業推進のために、市民・各事業者・行政に協力してもらいたい事項があれば記入してください)

事業の周知について回覧板やケーブルテレビ、包括支援センター職員等でPRを行っているが、市民に十分に届かないのが現実である。要介護にならない為の自らの取組の重要性が、市民に浸透するには少し時間がかかるのかもしれないが、一人ひとりの声かけから健康づくりの輪が広がってほしいと考える。地域での会合など出前講座など活用してほしい。

# 委員評価

## 点数

A 委員	B 委員	C 委員	D 委員	E 委員	F 委員	G 委員							
4	4	4	4	3	4	-							
平均得点	3.8												

## 委員意見

### 委員意見

#### [A委員]

・二次予防と一次予防を併進させるということは大変大切なことと思います。  
・介護予防教室など、男性の参加が課題かなと思います。

#### [B委員]

事業目標に向かっている姿勢を評価したい  
今後の方針内容に向けて更なる努力を希望します。  
事業費予算もかなり計上されているのでより有効に授業を実施してほしい

#### [C委員]

全数把握はどんどん変化するので難しいと感じた。  
二次予防に何をするか、参加してもらうかが課題でよく活動していただいていると思う。

#### [D委員]

介護予防対策のため、早期発見、早期対策としての二次予防事業対象者の把握は大切であるが、全数把握は困難に感じる  
年齢別や地域別など重点的に実施するなどの方策も検討する必要があるのではないか。  
介護予防教室を、地域の茶の間やサロン事業と合同で実施するか、委託し保健師、栄養士、体育指導員等を派遣すれば、回数も参加者も増えるのではないか

#### [E委員]

二次予防事業の対象者を全数把握に5年かけて実施という年月はあまりにも長すぎる  
把握の方法を工夫して早急な把握を目指してほしい

#### [F委員]

様々なところで、介護予防教室を設けたり高齢者が参加できる教室の数も増え大変良い。また、にほんの高齢者数が増えている今日、さらに住みよい社会となるよう一層の努力を望みたい。しかし、素晴らしい計画が市民に十分届かないのでは何もならない。さらに日々工夫の努力を願っている。

#### [G委員]

# 佐渡市地域福祉計画進行管理・評価 集計

事業名	健幸さど21計画推進事業				
新規or継続	継続	担当課・係	市民生活課健康推進室健康増進係	実施区域	全地区

## 計画・実行

### 事業概要(現状と課題)

健幸さど21計画の目標達成のために市民と行政が協働して行う健康づくり「しまびと元気応援団」の活動は今年で8年目を迎えています。ウォーキングや筋トレ、伝統料理・郷土芸能の伝承、親子あそび、食育や歯科保健の紙芝居・健康劇など、計画に掲げた目標達成の活動を楽しみながら実施しています。活動グループ数は52に増え登録者数も1,000人を超えました。

平成24年度の活動は、全体会1回、代表者会議12回、研修会2回のほかに、それぞれのグループ活動を毎月1～4回実施し、地域や年代を超えた仲間と豊かな気持ちや体験を共有しています。市が企画した事業に参加するのではなく、計画に沿った活動を自分たちで企画し実践しています。仲間がいるから楽しみに参加し、定期的に運動することでひざや腰の痛みが軽減したり薬の量が減るなど、心身両面に効果が現れています。また、高校生や専門学校生のグループが誕生したり、子育て中の母親のグループ活動など若い世代の参加が少しずつ増えてきています。代表者の負担感の軽減や参加者の固定化などグループ運営の課題がありますが、それも代表者の会議で話し合うことで解決していくよう取り組んでいます。

事業目標	工夫した点や重点的に取り組んだ点(H24年度中)
<ul style="list-style-type: none"> <li>しまびと元気応援団の参加者を増やす。</li> <li>活動を通じて「健幸さど21計画」の世代別目標を達成する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>多課等関係機関との連携強化。ツデーマーチの運営に参加し、しまびと元気応援団の活動テーマである「おもてなしのこころ」を伝えた。</li> <li>ソーシャルキャピタルの推進について、先進地から学ぶための研修の実施。</li> <li>しまびと活動を通して地域を活性化する。手始めに活動拠点であるしまびとの家の所在地の河原田商店会との連携強化し、本町市やすわ参道など地域イベントに協力。</li> </ul>

### 平成24年度実績

- 各グループ活動は1,385回、延べ13,500人の参加。
- 全体会 79名参加
- 代表者会議 12回 204名参加
- しまびと元気まつり 860名参加
- 会員研修 22名参加
- ツデーウォーク 75名参加、すり身汁 300食調理

## 自己評価

評価(実施主体)	評価に対する説明
5	しまびと元気応援団の活動グループ数も参加者も順調に増えており、周知度も上がっている。他課との連携による事業展開も増えている。

## 見直し・改善

### 今後の方針

しまびと元気応援団のグループ活動で得た知識や技術、人や地域とのつながりを発展させる。地域や学校等関係機関に出向き活動することで元気のおすそわけをする。

### 協働事項(事業推進のために、市民・各事業者・行政に協力してもらいたい事項があれば記入してください)

食育や地産地消など担当課との連携や、郷土の伝統料理伝承を企業等との協働を検討していきたい。

# 委員評価

## 点数

A 委員	B 委員	C 委員	D 委員	E 委員	F 委員	G 委員						
5	4	5	5	5	3	-						
平均得点	4.5											

## 委員意見

### 委員意見

- [A委員]  
特になし
- [B委員]  
「しまびと元気応援団」との活動を大いに評価したいが、マンネリ化しないよう更なる事業を展開してほしい
- [C委員]  
市民と行政がうまく協力し合っていることが、広報活動などよく分かります。今後もますます充実していくのを期待します。
- [D委員]  
「しまびと元気応援団」活動の様子は、よく分かる。盛んでよい。ただし、高齢者、女性の反響が目立つのはよいが、中年層(予備軍)や男性の参加者を増やす働きかけが必要ではないか。後継者の育成や参加者の固定化問題などの課題対策に取り組み、息の長い活動となるよう市として支援を継続してもらいたい。
- [E委員]  
学生のグループなどの若い人たちが参加されるようになり、活気があってよいと思う。
- [F委員]  
「健幸さど」のすばらしい活動などが地域、村にまで浸透するにはなかなか時間がかかる。村にまで下りてみんな行えればさらに良いのではないだろうか。さらに地域の活性化を図ることができる。
- [G委員]

# 佐渡市地域福祉計画進行管理・評価 集計

事業名	ボランティアセンター				
新規 or 継続	継続	担当課・係	福祉課地域福祉係	実施区域	全地区

## 計画・実行

### 事業概要(現状と課題)

小地域活動をより豊かできめ細やかに推進するために、ボランティアセンターの機能強化とボランティアの啓発・育成・調整を行います。また、ボランティア相互の親睦、連携を図るとともにボランティア連絡協議会の組織化を推進します。

事業目標	工夫した点や重点的に取り組んだ点(H24年度中)
------	--------------------------

<ul style="list-style-type: none"> <li>・ボランティアの人材発掘、育成</li> <li>・ボランティアセンターの機能強化</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・これまで、島内でどんなボランティア活動があるのかわからない、という声が多かったので、ボランティアセンター、ステーションで把握しているボランティア活動を集約し、市民向けに一覧表を作成いたしました。これをもとに、ボランティア活動への参加を呼びかけました。</li> <li>・ボランティア講座や交流会にて、アンケートを実施し、ニーズ調査を行いました。</li> </ul>
---	--

### 平成24年度実績

- ・ボランティア登録 個人:346名 団体:143団体、ボランティア活動者延べ数 8262人(909人増)
- ・災害ボランティア講座 年3回開催(参加延べ数 149名)
- ・その他ボランティア講座・交流会 年6回開催(参加延べ数 284名)
- ・収集ボランティアの支援
- ・社協だより、ホームページ等による情報発信
- ・福祉教育事業「出前塾」の実施 11校15回

## 自己評価

評価(実施主体)	評価に対する説明
4	ボランティア登録は年々微増、多世代、男女不問であります。新規の登録者には、努めて活動の場を紹介し、活動者数も増加しています。

## 見直し・改善

### 今後の方針

ボランティア活動はある特定の関心のある方が行うものだという意識を払拭し、どんな時でも誰もができる活動であるという意識づくりに努めます。

### 協働事項(事業推進のために、市民・各事業者・行政に協力してもらいたい事項があれば記入してください)

地域のささえあいを推進するためには、地域の要となる集落長や民生委員、自主防災会の役員等の関係者との連携は不可欠ですが、個人情報保護の関係で名簿等の情報公開が困難な状況であり、どのように連携するかが課題でもあります。ボランティア講座等の開催にあたり、関係機関と連携し、共催といった形での事業展開を望みます。

# 委員評価

## 点数

A 委員	B 委員	C 委員	D 委員	E 委員	F 委員	G 委員						
4	4	4	4	3	4	-						
平均得点	3.8											

## 委員意見

### 委員意見

- [A委員]  
ボランティア相互の親睦、連携  
ボランティア連絡協議会の組織化  
とても重要なことと思います。
- [B委員]  
ボランティアセンターの機能強化は今後も継続してほしいが、市民(住民)に対してボランティアセンターの活動についてPRが一寸不足気味。  
ボランティアセンターに登録してない方でも多方面で活動している方が見受けられますのでそれらの方へ感謝したい
- [C委員]  
ボランティアガイドブックを改めて読みました。センターとして日々連絡調整等を行い、中心になっていただいていることに感謝いたします。ますます機能が強化され佐渡の人々が元気に活動できるような支援をお願いします。
- [D委員]  
地域によって登録人数、活動に偏りがあるので少ない地域への働きかけが必要である。  
災害ボランティア講座への市職員の参加がないのはどうしたことだろう。いざという時への対応、知識、訓練は十分なのだろうか。
- [E委員]  
集約したボランティア活動一覧を各ステーションの窓口や包括に置いたり、交流会などで一般市民に周知されているとのことだがまだまだ周知が足りないと思う。
- [F委員]  
今までどんなボランティアがあるか分からなかったが、ボランティアセンターを中核として、推進することにより、より広く活動、実施することができニーズに合った対応もできるようになる。活動の場も増加しているとのことですばらしい。
- [G委員]

# 佐渡市地域福祉計画進行管理・評価 集計

事業名	いきいきサロン・地域の茶の間事業				
新規or継続	継続	担当課・係	福祉課地域福祉係	実施区域	全地区

## 計画・実行

### 事業概要(現状と課題)

誰もが気軽に寄り合うことができる場を作り、レクリエーション等を取入れ楽しんで参加いただくことで、孤独感の解消や健康増進につなげて開催しています。  
 高齢化が進み参加者が減少し先細りがみられる地区があります。また、担い手のボランティアにおいても負担が増し、新しい参加者や担い手の発掘が求められています。

### 事業目標

工夫した点や重点的に取り組んだ点(H24年度中)

地域福祉懇談会等で開催を呼びかけ未実施地区で開催を目指します。

・各グループ同士交流会を開催し情報交換を行うことで、活動のマンネリ化を防ぎ、集まりやすく楽しい活動ができるよう学びました。  
 ・市全域サロン・茶の間グループやボランティアを対象とした「サロン・茶の間ボランティア交流会」を開催しました。  
 ・活動をより円滑に安心して進められるようサロン・茶の間手引書を発行しました。

### 平成24年度実績

	平成24年度	前年度比較
実施回数	780回	100回増
開催会場	98箇所	16箇所増
延参加人数	11,670名	1,118名増

## 自己評価

評価(実施主体)	評価に対する説明
4	新規グループが立上がり事業規模は拡大しています。課題に対しての取り組みが始まっているので効果を注視していきたいです。

## 見直し・改善

### 今後の方針

参加者の減少や活動のマンネリ化という課題に対して、交流会を行う、レクリエーション用品貸出しする等対策や支援をより充実させていきます。集落等での説明会を積極的に行うとともに、おためしサロンを開催し新規立上げを促します。

### 協働事項(事業推進のために、市民・各事業者・行政に協力してもらいたい事項があれば記入してください)

参加者の増加には直接的に声かけすることが効果的と思われます。顔見知りの方や各事業を通じてお誘いいただくことをお願いしたいです。また、グループの立上げやボランティアに関心のある方々に思いあたりがあれば紹介していただきたいです。

# 委員評価

## 点数

A 委員	B 委員	C 委員	D 委員	E 委員	F 委員	G 委員						
3	4	4	4	4	3	-						
平均得点	3.7											

## 委員意見

### 委員意見

[A委員]  
 実際に担当している方々のご苦勞を理解することが大切であると思います。もっと参加している高齢者の方々の主体的な活動を促進する方向が大切なのではと思います。

[B委員]  
 実行内容についてもう一考したらどうでしょうか  
 今後さらに高齢化が進行しますので、社協だより等により参加しやすい工夫(内容)をしていただきたい。

[C委員]  
 サロンや茶の間について、あちこちで見聞きするようになりました。取り組みが成果を上げているのだと思います。  
 運営や継続は大変なことと思います。支援よろしくをお願いします。

[D委員]  
 リーダー不足、高齢化、マンネリ化で先細りが心配である。  
 未実施(未設置)の地域への働きかけが必要である。  
 介護予防教室との連携、合同実施を進める必要があるのではないだろうか？

[E委員]  
 23年度と比較すると、実施回数、参加人数ともに大幅に増えており良いことだと思う。

[F委員]  
 民生委員が中心で行っている市地域交流会は大変活発になっています。、また高齢者もとても楽しみにしています。しかし、毎月進めることであり、工夫しながら行っているが、民生委員への負担が大変大きい。民生委員には「お年寄りの喜び」よりも内容に対するアイデアへの「ネタ探し」に苦慮することの方が大きい。

[G委員]

# 佐渡市地域福祉計画進行管理・評価 集計

事業名	要援護者支援事業				
新規 or 継続	継続	担当課・係	社会福祉課地域福祉係	実施区域	全地区

## 計画・実行

### 事業概要(現状と課題)

毎年、災害時要援護者台帳・マップを更新して民生委員や消防団、自主防災組織、集落、警察へ提供しています。自主防災組織及び集落に提供する際には、「個別避難支援計画」の作成をお願いしています。(個別避難支援計画とは、災害時に地域内の要援護者を誰が支援に行くのかということ予め決めておくことです。)  
 地域内で助け合う体制づくりについては、各地域で温度差がありますが、すべての地域で要援護者の避難支援体制が確立されるよう取り組む必要があります。  
 平成25年6月の災害対策基本法等等の一部を改正する法律により、市町村で「避難行動要支援者名簿」の作成が義務となりました。この「避難行動要支援者名簿」の内容に相当している場合は、改めて作成する必要はないとされているため、佐渡市においては、「災害時要援護者台帳」の名称で作成しています。

事業目標	工夫した点や重点的に取り組んだ点(H24年度中)
------	--------------------------

災害時等に実際に助け合ってもらえる地域を増やす。要援護者のいる地域すべてに個別避難支援計画を作成してもらう。	妊産婦・乳児を新たに対象者として加えました。災害時要援護者避難支援プラン(全体計画)を第2次地域福祉計画に記載しました。
--	--

### 平成24年度実績

要援護者台帳・マップを提供した自主防災組織及び集落の合計数386団体のうち個別避難支援計画作成済み団体数212団体(作成率54.9%)

## 自己評価

評価(実施主体)	評価に対する説明
4	災害時に地域で助け合うためには、日ごろから声掛けなど活動が重要である。今までは、地域に対して災害時の活動を重点的に説明をしていたが、日ごろの活動の重要性を説明していきたい。

## 見直し・改善

### 今後の方針

日ごろの見守り、声掛け活動を地域で実施してもらえよう、囑託員会議等で説明していきたい。地域の代表者の方からの要請があれば、地域の集まりに出向いて説明していきたい。

### 協働事項(事業推進のために、市民・各事業者・行政に協力してもらいたい事項があれば記入してください)

助け合える地域を作るには地域のリーダー(区長や集落長など)が単年で交代せずに、ある程度の年数を務めていただくことが効果的だと考えます。きっかけとなる事業や取り組みがあればお願いしたい。

# 委員評価

## 点数

A 委員	B 委員	C 委員	D 委員	E 委員	F 委員	G 委員						
3	4	4	3	3	3	-						
平均得点	3.3											

## 委員意見

### 委員意見

[A委員]  
 地域で避難支援体制の確立は大変重要なことと思いますが、もう少し市の方で積極的に働きかけがいるのではと思います。

[B委員]  
 近年、各地で災害が多発している。自主防災組織については各集落で取り組んでいるが、いざ発生となると、どこまで組織が動いてくれるか不安もある。支援者名簿については、個人情報保護との関係もあるかもしれないが、公開方法について再考してはどうだろう。協働体制の中で地域リーダーとして区や集落に期待するところは大きいと思うので(単年交代が多いのは集落組織としてやむを得ないところがある)市としてどうあるべきか、全庁内の横の連絡方法に再考を願う。

[C委員]  
 美談になってしまったり、又、責任を一生背負って生きていかなければならないようなことにならないよう、一定のルールが必要だと思います。個々に責任がかかりすぎないよう皆で知恵を出していきましょう。多くの災害時での日本人の助け合いの精神を信じていきたいです。

[D委員]  
 台帳がどのように活用されているのか見えない。具体的な活用事例集などがあると、有効に活用されるのではないかと。個別避難支援計画作成を市から強力に働きかける必要がある。自主避難対策と言われても、高齢化(人口減少)している地域では動けない、動かないのが現状である。住民にまだ危機感がないように感じる。

[E委員]  
 地域で助け合う体制づくりについては地域によって理解が違っていると思う

[F委員]  
 24年度で212団体/386団体(54.9%)の個別避難支援計画作成率とのことであるが、自分たちの村に不自由な人がどれだけいて、いざという時はどう支援するかを実際行ってみることが大変大事なことで。日頃の声かけを大事にしていきたい。

[G委員]

# 佐渡市地域福祉計画進行管理・評価 集計

事業名	老人保護措置事業				
新規or継続	継続	担当課・係	高齢福祉課・高齢福祉係	実施区域	全地区

## 計画・実行

### 事業概要(現状と課題)

65歳以上であって、「環境上の理由」及び「経済的理由」により、居宅での生活が困難な高齢者を養護老人ホームに措置入所する制度です。措置入所するためには、入所判定委員会の判定が必要です。  
このほか、高齢者虐待等の「やむを得ない理由」の場合、特別養護老人ホーム等へ緊急的に措置入所させることで高齢者の安全を確保しています。

ここ数年精神障がい者や困難事例等の施設対応が難しいケース、介護度等が養護老人ホームで対応できないケース、本人が入所拒否するケースの申請が増加しています。

事業目標	工夫した点や重点的に取り組んだ点(H24年度中)
必要な高齢者に速やかな措置入所行う。 入所希望者等への施設周知	・緊急性の高い申請については、入所判定委員個々への持ち回り判定を実施し、速やかな措置入所を行った。 ・待鶴荘、ときわ荘合同の施設パンフレットを作成し、窓口での施設説明の改善を行った。

### 平成24年度実績

平成24年度末措置入所者数  
待鶴荘 99名【待機者2名(条件付き保留者)】  
胎内やすらぎの家 5名【待機者なし】

## 自己評価

評価(実施主体)	評価に対する説明
4	対象者については順調に措置できている。

## 見直し・改善

### 今後の方針

介護度等が重く施設対応が困難なケースの申請が年々増加しているため、今後入所者が元気で暮らせる適切な時期での入所(申請)ができるよう支援者(包括支援センター・居宅介護支援事業所等)と連携する。

### 協働事項(事業推進のために、市民・各事業者・行政に協力してもらいたい事項があれば記入してください)

軽費老人ホームときわ荘でも同様に介護度が重く入所できないケースが増加しています。両施設とも出来る限り住みなれた自宅での生活を希望するため施設入所を拒否し、申請が遅れ入所出来ない状態になっています。  
施設入所することが支援の最善策ではありませんが、希望する高齢者が適切な時期に入所できるよう支援と施設の周知についてご協力をお願いします。

# 委員評価

## 点数

A 委員	B 委員	C 委員	D 委員	E 委員	F 委員	G 委員						
4	4	4	4	3	3	-						
平均得点	3.7											

## 委員意見

### 委員意見

[A委員]  
特にありません

[B委員]  
緊急性の高い申請について判定委員個々への持ち回り判定(決裁)をし、速やかな措置入所を行ったことについて高く評価したい。  
となく、行政は御役所的と言われる中こうした対応はほかの事業についても必要と思われる。

[C委員]  
多様なニーズの中で、対象者に順調に対処しておられるとのこと。感謝いたします。

[D委員]  
この事業は、市で責任を持って行うこと。民間に任せないことが大原則と考えます。  
専門職等と連携して、緊急性の高いケースの判断や対応を継続していく必要がある。

[E委員]  
入居中の方が重度化しても継続して入居していただけるような仕組みを作してほしい

[F委員]  
佐渡の高齢化現象が年々激しくなっている昨今、高齢者は速やかに入所する必要がある。しかし入所がなかなかできない現状である。そのような中で待鶴荘、ときわ荘の速やかな入所は本当にありがたい。今後もこのような「環境上理由」「経済的理由」で緊急的に措置入所させることが増えてくると思われる。さらにこのような施設の増加を願う

[G委員]

# 佐渡市地域福祉計画進行管理・評価 集計

事業名	成年後見制度の利用支援事業				
新規 or 継続	継続	担当課・係	高齢福祉課 介護保険係	実施区域	全地区

## 計画・実行

### 事業概要(現状と課題)

身寄りのない認知症高齢者、知的障害者及び精神障害者が後見、補佐又は補助の制度を利用するための審判の請求手続き及び審判請求に要する費用、成年後見人等に対する報酬を助成します。  
この制度の利用件数は平成23年度までは1件程度で推移していたが、平成24年度11件と年々増加しています。しかし、島内では、後見人等のなり手は少なく、制度を利用しにくい現状となっています。  
今年度から3年間にわたり、国庫補助事業での市民後見推進事業に取り組を始め、平成26年度からは年5人の成年後見人の育成を行っていきます。

### 事業目標

工夫した点や重点的に取り組んだ点(H24年度中)

### 関係機関との制度検討

後見人のなり手の確保や市の支援制度の見直しについては、司法、行政、福祉関係機関との連携の下、プロジェクトチームを立上げ、成年後見センターの設立、成年後見制度利用支援事業の要綱改正等を行い、佐渡市における後見人不足の解消に向けての取組を行った。

### 平成24年度実績

平成24年度実績 11件 1,286,000円

## 自己評価

評価(実施主体)	評価に対する説明
3	後見人制度の利用希望者(対象者)は増加しているが、後見人のなり手がいない現状が続いている。市民後見推進事業の取組を進めていく必要がある。

## 見直し・改善

### 今後の方針

平成25年度から社会福祉協議会に委託し、国庫補助事業の市民後見推進事業に取り組み、平成26年度から年5人等の育成を目標とする。

### 協働事項(事業推進のために、市民・各事業者・行政に協力してもらいたい事項があれば記入してください)

社会福祉士会、弁護士等と制度について、行政と協力して改善策を協議する場を設けてほしい。  
市民後見推進事業の養成講座等への積極的な参加のための協力がほしい。

# 委員評価

## 点数

A 委員	B 委員	C 委員	D 委員	E 委員	F 委員	G 委員						
3	3	4	3	4	3	-						
平均得点	3.3											

## 委員意見

### 委員意見

【A委員】

後見人のなり手がいない現状がなぜ続くのか。一方で利用希望者増加していると言いますが、国全体と関連するものと思いますがもう少し後見人を優遇し、利用者の負担を増やしても良いのではと思います

【B委員】

後見人(成年)のなり手は難しいと思うが更なる努力を期待したい。県社協でも県内の本制度について実態調査を行ったと聞いているが、その結果新潟市と佐渡市が市民後見人の研修や育成講座を始めているが、まだ第三者後見人に任されたケースはないと言っている。今後さらに高齢化と併せて認知症の方や単身世帯も増加するものとみられるので社協やNPO法人でも積極的に取り組んでほしい。

【C委員】

後見人になった時の仕事量、責任、負担など多大なものがあるように感じます。その辺をもう少し明確に出してもらおうと説明会に行ってみようかなという気になる人も増えるのではないのでしょうか？ご苦労様です。

【D委員】

後見人のなり手不足の課題に対して、成年後見センター設立や要綱改正等の拡充による取り組みで実績を上げており、県内でも先駆的な活動である。請求手続き等に要する費用、成年後見人等の報酬の助成だけでなく、利用人数も大幅に増えたことでもあり、後見業務に必要な費用(人件費)を市が援助、負担してほしい。後見人育成事業の実務講座に市職員の参加がないのはどうしてだろう。

【E委員】

助成の実績も年々上がっており利用しやすい事業になっていると思う。

【F委員】

年々身寄りのない認知症高齢者、知的障害者及び精神障害者が増加していく中、後見人のなり手が少ないことは大変問題である。26年から年5人の成年後見人の育成を確立し、現在20人くらいいるとのことであるが、今後さらに成年後見制度の充実を図る必要がある。

【G委員】

# 佐渡市地域福祉計画進行管理・評価 集計

事業名	発達障がい支援事業				
新規 or 継続	新規	担当課・係	社会福祉課児童家庭支援センター	実施区域	全地区

## 計画・実行

### 事業概要(現状と課題)

文部科学省のデータによれば、発達障がい児は、推計6.5%疑いも含めて10%とされ、佐渡市も例外ではない状況です。そのため、早期発見・早期支援の体制づくりが急務です。平成24年度から、園等巡回支援事業を実施し、母子保健・医療・教育との連携から早期発見は可能になってきました。しかし、早期支援については課題が多い現状です。家族機能が低下している世帯も多く、子どもの成長過程を支援するためには、児童家庭支援センターの機能の充実が必須です。内容は、就学をスムーズにするため年長児を中心に園等の巡回訪問し助言・支援を実施しています。必要に応じて、保護者や関係機関と支援会議を開催しています。また、小学校1～2年生の発達障がい児(疑いも含む)の保護者向けのペアレントトレーニング事業を実施しています。

事業目標	工夫した点や重点的に取り組んだ点(H24年度中)
------	--------------------------

発達障がいの早期発見及び早期発達支援のため、関係機関と連携し、発達障がいに関して総合的に支援し、発達障害児の福祉の向上を図る。	園等の定期的な巡回により、同じ視点で子どもの成長を確認し、必要な支援について保育担当者と相談できる仕組みができた。スムーズな就学に向けて、保護者と相談の上、保健・医療・福祉・教育関係者との会議の調整などに努めた。
---	--

## 平成24年度実績

巡回した施設数(市内保育園・幼稚園・幼児健診)実43か所、延198回  
 助言等支援の対象児童数 実389人、延777回  
 個別支援会議 延10回

## 自己評価

評価(実施主体)	評価に対する説明
4	発達障がい児の支援、支援体制については急務の状況です。早期発見については巡回支援事業、現場の努力、母子保健や教育との連携が図られるようになり充実してきた。今後は早期支援のための取り組みを強化していきたい。

## 見直し・改善

### 今後の方針

平成25年度からは、対象児を0～5歳児に拡充。保育士1名を増員し事業を継続実施していきます。近年増加している発達障がい児支援事業及び支援体制づくりにおいては、市長が市民に明言している事業です。養育に課題のある家庭を早期から支援し発達障がいの悪化、二次障害の予防を図るための支援体制も課題となっており、子ども・若者支援体制を構築するため、庁内連携を強化し、プロジェクトを立ち上げ協議を重ねています。さらに、平成26年度からは早期療育のための事業として対象児及びその保護者のための療育教室、幼児向けの子育て講座(ペアレントトレーニング)を実施予定です。

### 協働事項(事業推進のために、市民・各事業者・行政に協力してもらいたい事項があれば記入してください)

発達障がいについての理解を深めていただき、地域での支援もお願いしたい。そのための普及啓発等の機会がありましたら声をかけていただきたい。

# 委員評価

## 点数

A 委員	B 委員	C 委員	D 委員	E 委員	F 委員	G 委員						
4	4	5	4	4	3	-						
平均得点	4											

## 委員意見

### 委員意見

【A委員】  
 ・親を支援することも大切ですが、親の代わりをするのではないと思います。  
 ・どうして、発達障がい児が増加しているのか。昔は明らかにしなかっただけなのか、明らかにしていけないと、追いかけるだけになるのでは。

【B委員】  
 児童家庭支援センターの更なる充実に期待しています。

【C委員】  
 園への巡回、関係機関との連携などなど大変なことと思います。あちこちでその活動を見聞きます。支えになっている保護者、園が多くあると思います。ますますの充実に期待します。

【D委員】  
 早期発見体制、事業はよし。いかに支援体制を確立するか、そして機能させるか。更なる取り組みが必要と考える。  
 児童、保護者の為にも、学校・教育委員会との連携も必要である。

【E委員】  
 子どもにとっても親にとっても非常にデリケートな問題だと思う。  
 普及啓発も頑張ってください

【F委員】  
 市における巡回支援事業などを通して母子保健、医療、教育との連携による早期発見ができるよう充実してきたがさらに強化していく必要がある。児童家庭支援センターによる更なる助言、支援を充実してほしい。

【G委員】

# 佐渡市地域福祉計画進行管理・評価 集計

事業名	家庭相談室運営事業				
新規or継続	継続	担当課・係	児童家庭支援センター	実施区域	全地区

## 計画・実行

事業概要(現状と課題)
-------------

地域の児童及び妊産婦の福祉に関し必要な実情の把握、必要な情報の提供を行い、各般の問題につき、児童、母子家庭、その他の家庭、地域住民その他からの相談に応じ、必要な助言を行うとともに、保護を要する児童又はその保護者に対する指導を行い、あわせて児童相談所、児童福祉施設等との連絡調整等を総合的にを行い、地域の児童、家庭の福祉の向上を図る。

事業目標	工夫した点や重点的に取り組んだ点(H24年度中)
------	--------------------------

要保護児童対策協議会を軸とした関係機関(保育園、学校、民生児童委員、児童相談所等)の連携を密にし、児童虐待防止を図る。 児童・家庭相談やDV相談の対応・支援を図る。	佐渡市要保護児童対策協議会設置要綱を改正し、支援の対象を要保護児童だけでなく、要支援児童・特定妊婦を加えました。特定妊婦の支援について、地区担当保健師、病院関係者等と連携を図って対応しました。 NPプログラムを島内4地区で開催しました。
---	---

## 平成24年度実績

・要保護児童対策協議会代表者会議 2回 実務者会議全地区(前期・後期)2回 個別支援会議 14回  
 ・児童・家庭相談 60件 ・DV相談 7件 ・育児支援家庭訪問事業 1件 ・児童虐待防止研修会 参加132人  
 ・NPプログラム 7回コース(両津11人、相川10人、国仲9人、南部9人)延参加人数 198人  
 ・母子寡婦福祉資金貸付金相談 相談件数 1件(申請窓口は地域振興局)

## 自己評価

評価(実施主体)	評価に対する説明
4	・NPプログラムは、佐渡全域を対象として4地区で実施する事ができた。 ・児童虐待やDVについては、市民の理解が広がっている。これらに対応するための、他課、関係機関との連携が向上している。

## 見直し・改善

今後の方針
-------

要保護児童対策協議会の事業として、平成20年度から平成24年度の5年間に佐渡島内で発生した、児童虐待事例約100件の検証を実施。児童虐待の発生要因や経過等を検証することにより、児童虐待予防や市の対応の今後の在り方の一助とする。また、関係機関から参加いただき、より一層児童虐待の理解を深める。

協働事項(事業推進のために、市民・各事業者・行政に協力してもらいたい事項があれば記入してください)
---

他課、関係機関との連携により、要保護児童等の情報を共有化し、より一層の協力・支援体制作りを作る。

# 委員評価

## 点数

A 委員	B 委員	C 委員	D 委員	E 委員	F 委員	G 委員						
4	4	4	4	3	2	-						
平均得点	3.5											

## 委員意見

委員意見
------

[A委員]  
特にありません

[B委員]  
庁内、関係機関の連携を今後も続けてほしい。

[C委員]  
貧困、虐待などいろいろな問題を抱えた母子がいる中で、多様な支援をし続けていることに感謝いたします。今後とも孤立を防ぎ、育児不安をやわらげ、虐待予防への支援をお願いいたします。

[D委員]  
よくわからないので、24年度実績報告で評価しました。  
事業概要の説明文が一文で長く、理解しにくい。  
短文にして、分かるように説明してもらいたい。(私だけでしょうか?)

[E委員]  
DV相談に関しては、相談窓口になっていることの周知活動に取り組みられてはどうか

[F委員]  
地域の児童及び妊産婦の福祉に関する必要な実情の把握、必要な情報の提供が関係機関(保育所、学校、主任児童委員、児童相談所等)に行き渡らず連携が密に取れていない。要保護児童対策協議会が十分に機能していないように思われる。関係機関との連携が前に比べほとんどできてない。情報の共有化などゼロである。これでいいのだろうか。一層の協力、支援体制づくりが必要である。根本的に見直しがさらに、さらに必要である。児童虐待等は増える一方である。

[G委員]

# 佐渡市地域福祉計画進行管理・評価 集計

事業名	母子保健事業				
新規or継続	継続	担当課・係	市民生活課健康推進室健康増進係	実施区域	

## 計画・実行

### 事業概要(現状と課題)

乳幼児の発育発達支援のために、乳児(3~4か月、6~7か月、10~11か月)、1歳6か月児(1歳6か月~8か月)、3歳児(3歳~3歳2か月)に対する健診・保健指導を市内6会場で実施しています。支援が必要なお子さんに対しては、児童家庭支援センターや医療機関、保健所と連携し、療育相談や家庭訪問、保育所訪問等で個別に支援しています。発育発達に遅れやアンバランス等のあるお子さん及び保護者に対しては、将来も見据えた切れ目のない継続的な支援が課題であり、庁内横断のプロジェクトで体制づくりを考えています。

事業目標	工夫した点や重点的に取り組んだ点(H24年度中)
乳幼児健診受診率 95%(平成27年度) 健診未受診者の状況把握 100%	単に受診率の向上を図るだけでなく、気軽に相談できる工夫を社会福祉課子育て支援室や子育てグループと連携して取り組み始めた。発達で経過観察が必要な児については、児童家庭支援センターと連携して支援している。

### 平成24年度実績

乳児健診	対象者	1107人	受診者	1090名	受診率	98.5%
1歳6か月健診	対象者	415人	受診者	402人	受診率	96.9%
3歳児健診	対象者	410人	受診者	390人	受診率	95.1%

## 自己評価

評価(実施主体)	評価に対する説明
5	健幸さど21計画による平成27年度の健診受診率の目標値は達成した。諸事情により、受診の出来ないお子様に対しては、家庭訪問や保育園へ訪問し、育児不安の軽減や虐待等の予防、早期発見に、関係機関と連携して努めている。

## 見直し・改善

### 今後の方針

健診未受診者への訪問等の受診勧奨や、再通知での受診率の向上に努めます。育児をふり返り、成長を喜び合える身近な相談者として、子育てを支援していきます。また、親同士の仲間づくりや子育てグループの活動を支援します。さらに、発達段階の正しい知識等子育て情報を発信していきます。

協働事項(事業推進のために、市民・各事業者・行政に協力してもらいたい事項があれば記入してください)

# 委員評価

## 点数

A 委員	B 委員	C 委員	D 委員	E 委員	F 委員	G 委員						
5	5	5	4	5	5	-						
平均得点	4.8											

## 委員意見

### 委員意見

[A委員]  
[B委員]  
目標値達成に敬意します。少子化の中、子どもは国の宝です。  
[C委員]  
受診率の高さに驚きます。皆様の細やかな活動のおかげと思います。ちょっとした声かけや支援の必要なお母さんと子どものために、これからもよろしく願います。  
[D委員]  
3歳児健診の受診率の向上を図ること。(親は一安心のころ)この年齢頃から発達障がいが見つけられるのではないのでしょうか。庁内横断のプロジェクト体制づくりをすること。(考えているだけでは、計画、実行ではないと思います。)  
[E委員]  
健診の受診率は目標を達成しており、未受診者においても100%の把握をされているとのこと。継続して取り組んでほしい。  
[F委員]  
児童家庭支援センターや医療機関、保健所との連携がしっかりしているため、予防、早期発見等がいきとどいている。何事も関係機関との連携が大切である。  
[G委員]

# 佐渡市地域福祉計画進行管理・評価 集計

事業名	地域子育て支援センター事業				
新規 or 継続	新規	担当課・係	社会福祉課子育て支援係	実施区域	全地域

## 計画・実行

### 事業概要(現状と課題)

未就園児の保育者相互の情報交換や、地域全体で子育てを支援する基盤形成の支援を行う。  
 また、子育て家庭等に対する育児不安等についての相談指導を行う。  
 課題:核家族化が進んでおり、育児不安をもつ母親が増えており、家庭以外の場で遊びをとおして交流することで、子どもの心身の発達を促し、母親のストレス軽減や育児の知識を得られるような未就園児親子の集う場の必要性が増大している。  
 両津地区の早期開設。

### 事業目標

工夫した点や重点的に取り組んだ点(H24年度中)

子育て支援センターをもっと利用してもらえようアピールしていく。  
 旧喜楽荘にさわた子育て支援センターを週2回開設しました。

### 平成24年度実績

たかち子育て支援センター 月～金 9:00～14:00	年一日当りの平均利用者数 4.4組
さわた子育て支援センター 火、金 9:00～14:00	年一日当りの平均利用者数 13.0組
平泉子育て支援センター 月～金 9:00～11:30 13:00～15:30	年一日当りの平均利用者数 5.1組
新穂子育て支援センター 月～金 9:00～14:00	年一日当りの平均利用者数 6.9組
小木子育て支援センター 月～金 9:00～16:00	年一日当りの平均利用者数 5.6組

## 自己評価

評価(実施主体)	評価に対する説明
4	現在設置の支援センターについては、今後も同様に実施していく。週2回であったさわた子育て支援センターを25年度から週5回開設。真野第1保育園にも支援センターが25年度から開設。

## 見直し・改善

### 今後の方針

地区によって未就園児の子育て支援対策に隔たりができないよう配慮が必要である。

協働事項(事業推進のために、市民・各事業者・行政に協力してもらいたい事項があれば記入してください)

# 委員評価

## 点数

A 委員	B 委員	C 委員	D 委員	E 委員	F 委員	G 委員						
4	4	4	4	4	4	-						
平均得点	4											

## 委員意見

### 委員意見

[A委員]  
 いろいろな事情があると思いますが両津地区の早期開設、重要と思います。

[B委員]  
 「子育て支援センター」とはどんな内容でどんな仕事をしているのだろうかという市民が多いのではないかと。島民(市民)への啓発を望む。

[C委員]  
 支援センターが少しずつ増えてきて心強く感じます。時間の延長や土日にも開催してほしいとの声にも今後答えてほしいです。

[D委員]  
 全国5万人以上の都市で、子育てしやすい都市ランキングで第12位に評価されていることは大変うれしい。利用度の高い佐和田地区にセンターを開設したこと。さらに、25年度より利用日を5日延長していること。民間や社協のやっている支援事業と連携を図ること。特に民間への支援が大切なのではないのでしょうか？

[E委員]  
 今度も周知活動に努力してください。

[F委員]  
 核家族化傾向にある現状社会の中で未就園児の保育者相互の情報交換や地域全体の子育て支援の基盤形成の支援は大変重要である。しかし、すべての地区に子育て支援センターがあることが望ましい。まだない地区の支援センターの早期開設を望みます。

[G委員]